

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達サポートガリレオキッズ		
○保護者評価実施期間	2026年2月10日		～ 2025年2月25日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	32	(回答者数) 31
○従業者評価実施期間	2026年2月15日		～ 2026年2月26日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	13	(回答者数) 13
○事業者向け自己評価表作成日	2026年2月27日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	水泳療育を定期的に取り入れている。また理学療法士が水泳療育に携わっている。	<ul style="list-style-type: none"> 水泳療育は、療育中の運動の様子だけでなく、着替えや事前の準備（トイレに行く、水分補給する等）ができるようになる支援を含んでおり、子どもたちの成長を多方面から支援できる。 理学療法士が、水中で鍛えられる筋肉を意識してアプローチできる。姿勢維持などに成果をもたらしている。 	水泳療育の効果を記録・数値化する 疾患別の水中プログラムを体系化する 保護者へ成果をフィードバックする 医療職との合同評価会を行う
2	医療従事者向けの発達障害の専門的講義を受ける機会が多い	<ul style="list-style-type: none"> 医学的視点から発達特性を理解できる 診断基準や病態理解に基づいた支援ができる 医療との専門用語レベルでの共通理解が可能 	受講内容を職員向けにミニ研修として共有 資料をまとめて「事業所内ナレッジ化」する 用語や支援ポイントをわかりやすく整理する
3	専門職が多い。 医療職(医師・理学療法士・言語聴覚士)が在籍している。 経験のある特別支援学校教員がいる。 絵本専門士が在籍している。	多職種でケース共有を行い、総合的な視点で支援方針を決定している。	定期的な多職種カンファレンス 専門職同士の合同研修 それぞれの専門性を活かした合同プログラム作成 専門性を対外的に明文化

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・さまざまな環境の刺激を遮断できるような、個室での支援を受けられる空間を提供出来ていない。	<ul style="list-style-type: none"> パーティション等での仕切りだけでは対処することが難しい。 限られた支援空間の中で活動している。 	・併設する医療施設が休診の際は、リハビリテーション室などを利用し、個別支援ができるようにする。
2	支援内容の統一 職員間の共通理解の向上 より効果的なプログラム編成	<ul style="list-style-type: none"> 支援対象の子どもの整理（体系化）が十分にできていない 現在は年齢で区分しているものの、それだけでは一人ひとりの特性や支援ニーズに十分対応できていない 	支援タイプ別の活動メニューを作成する 定期的な効果検証 年間計画の見直し
3	<ul style="list-style-type: none"> 役割分担や業務手順が明確でなく、情報共有やマニュアル整備が不十分。 改善を進める体制や仕組みが整っていないため、業務の効率化が十分に図られていない 	<ul style="list-style-type: none"> 役割分担や業務手順が明確でなく、情報共有やマニュアル整備が不十分。 改善を進める体制や仕組みが整っていないため、業務の効率化が十分に図られていない 	各業務の担当者と責任者を明確にする 業務内容を整理し、簡潔なマニュアルを作成する 業務の流れを一覧表やフローチャートで「見える化」する 定期的に情報共有の時間（ミーティング）を設ける